

ほっかいどう

かいはつグラフ

北海道開発局広報誌

Vol.33

2003 季刊



北海道開発グラフ

通巻第三十三号

二〇〇三年(平成十五年)六月

監修

北海道開発局広報室

発行 財団法人北海道開発協会

〒001-0001 札幌市北区北11条西2丁目 セントラル札幌ビル
☎011-700-5111 FAX 011-700-5115

開発の日々の
ひとコマ



厚岸漁港 (中央の橋は厚岸大橋) 昭和56年

あつけし 厚岸漁港はカキ貝の特産地

厚岸漁港は、厚岸湖口にある天然の良港です。カキの水揚量は全道の約2/3を占め、厚岸ブランドとして全国的にも有名です。昭和の初めと昭和50年代の二度、原因不明の大量死に見舞われましたが、その後、町と漁民の努力により養殖カキとして復活しました。近年では「生まれも育ちも厚岸カキ」の生産を目指し、種苗からの養殖に取り組んでいます。

北海道開発局による厚岸漁港の整備事業は昭和31年より始まりました。昭和56年当時はイワシ、スケソウダラ漁業が最盛期で、大型漁船に対応した第1ふ頭の整備を行っていました。現在は、養殖漁業と漁船漁業のどちらにも利用しやすい施設の整備を進めています。

天塩川源流

天塩川は、その流域に北海道らしい雄大な自然を残す、我が国の最北を流れる一級河川です。上川支庁と網走支庁の境界にある天塩岳(標高1,558m)の懐に源を発し、険しい山肌を縫い、深い森をくぐりながら、やがて岩尾内ダムで一時のやすらぎを経た後、数々の支川を合わせながら、名寄盆地、天塩平野などを流れ、日本海へ注いでいます。

カヌーが盛んで、北海道開発局ではカヌーポートを整備しました。夏には国内有数のカヌー・ツーリング大会「ダウン・ザ・テツシ・オ・ベツ」が開かれています。

特集・新技術を活かす

事業紹介／滝野すずらん丘陵公園開園20周年

じつと最前線／地域の方々とともに美しいみちをつくります

開発事業のあゆみ／漁業と暮らしを守り続けたみなど

〜雄冬漁港〜

ピックアップ／「北国の住宅ビジョン」の策定

十勝川水防公開演習

ちよこつとひつぎ...道の駅／オホーツクエリアの道の駅

北国賦／千年の樹

〜三友チーズ工房「チーズ館」代表 三友 由美子さん

従来の技術・工法では

夜の間に工事を終わることができないため、滑走路を閉鎖して工事を実施せざるを得ない事態が想定されました。滑走路を閉鎖すると、空港利用者への影響がきわめて大きくなってしまいます。

新千歳空港は、北の拠点空港として年間約1,800万人に利用されています。しかし、昭和63年から利用している滑走路が、長年にわたる夏期の高温と冬期の雪水に加え、何百トンもの飛行機の離着陸の繰り返しにより、舗装の深い部分まで劣化していることが判明しました。このため、全国でも例のない、滑走路の抜本的な改良工事が必要となりました。北海道開発局では、空港がいつでも安全に利用できるように滑走路の整備・改良事業を行っています。多くの人が利用する空港の運用に影響を与えずに大規模な改良工事を行うため、新技術を開発し、工事を進めています。

滑走路の大規模改良を実現する

大粒径中温化アスコンを使用したシックリフト工法

舗装を厚くして時間を短縮

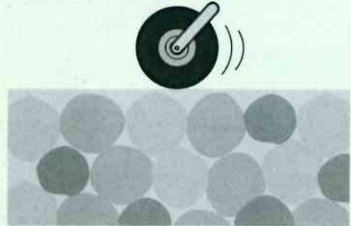
①シックリフト工法



1回当たりの舗装を従来より厚くして、全体の舗装の回数を減らすことにしました。

舗装材料を工夫

②大粒径アスコン



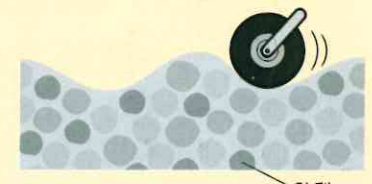
大きい砂利を使うことでかみ合わせを良くして、舗装の平坦性を高めることができます。

③中温化技術



材料に添加剤を加え、通常より低い温度で舗装。舗装後、アスファルトが冷えて固まるまでの時間が短縮できます。

従来の材料で舗装を厚くすると次のような問題があります。



砂利のかみ合わせが安定せず、平坦性が確保しにくくなります。



熱が逃げにくく、舗装後にアスファルトが十分に冷えて固まるまで時間がかかります。

①②③を組み合わせることで、従来の技術・工法では6回程度かかる舗装を2回に減らし、滑走路を閉鎖することなく工事を進めています。



空港は平常どおりに利用されています。



夜の間に工事を進めています。

新技術を活かす

インターネット、携帯電話、カーナビゲーションなどの新しい技術の登場により、私たちの暮らしはひと昔前とくらべてずいぶん変わりました。この瞬間も、各分野で技術は進歩し続けています。北海道開発局でも、新技術の開発・導入に取り組み、工事、調査、パトロール活動など様々な場面で活用しています。今回の特集では、新技術を活かした取組のいくつかをご紹介します。

- 北国に適した建物をつくる
- 滑走路の大規模改良を実現する
- 道路・河川の安全を守る
- 港の中に豊かな環境を生み出す
- 宇宙から農地の情報を集める

外断熱工法

従来の内断熱工法と比べて、

- ①暖房・冷房の効率化
- ②結露の防止
- ③建物を長持ちさせる

などの点で優れています。

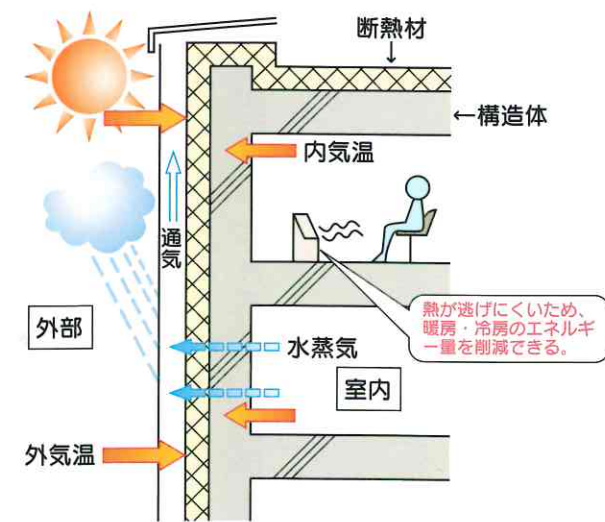
北海道開発局では、平成7年からの基礎データをもとに、今年4月、「外断熱建物に関する性能基準」(*)を定め、適用を開始しました。この性能基準は、外断熱工法により官庁施設を整備する際に用いられるほか、広く一般にも活用されることが期待されます。

*内容については、北海道開発局のホームページでご覧になれます。
(アドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp>)

北国に適した建物をつくる

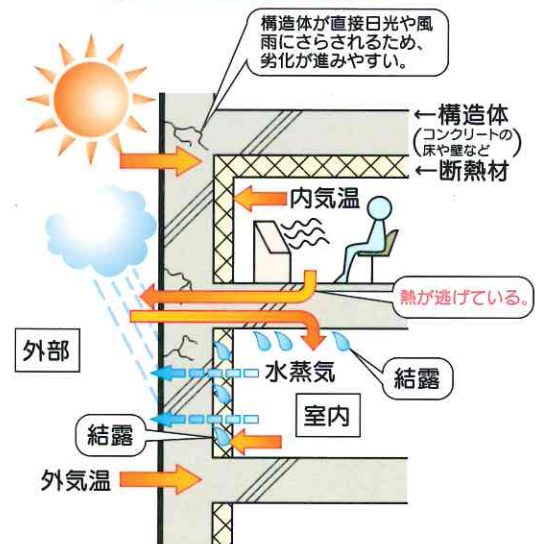
北海道は、日本で最も北に位置し、気温が低く積雪が多い地域です。この気象条件の厳しい北国にふさわしい建築技術の開発が求められています。北海道開発局では、官庁施設(国の予算で建てられる施設)の整備を進めるに当たり、建物から熱を逃げにくくして、温度差の少ない快適な室内環境を作るため新技術を活用しています。

外断熱工法



外壁を断熱材で覆っているため、熱が逃げにくく、効率的に暖房・冷房ができます。また、構造体が日光や風雨から受ける影響が小さくなり、建物が長持ちします。

内断熱工法 (従来工法)



断熱材のない床や天井などから熱が逃げ、結露が発生しています。また、外壁が直接日光や風雨にさらされるので、建物の劣化が進みやすくなっています。

カワナビ

(河川防災支援ナビゲーションシステム)

GPSレシーバ、河川の地理情報を組み込んだパソコン、携帯電話などの情報機器を組み合わせたシステムです。災害時には、現地の情報を速やかに収集し、その場から災害対策本部への送信が可能になりました。このシステムは現在、小樽開発建設部 蘭越河川事業所が維持・管理する尻別川で運用されています。



※赤丸内がGPSレシーバー

きたときには、正確な情報をより速やかに伝えることが被害の拡大を防ぐこととなります。北海道開発局では、道路や河川のパトロール活動を効率的に行い、現地の情報を速やかに伝えるために、新技術を活用した取組を進めています。

災害が発生したときには…

災害発生

出動

現場

災害対策本部

情報の送信

リアルタイムで
情報を交換

指示

対策の策定

対策の実施

これまで、現地の情報は事業所に戻って整理し、災害対策本部に送信していました。カワナビによって、現地と災害対策本部が直接情報を交換できるようになり、情報の伝達にかかる時間が短縮されます。すみやかな対策の策定・実施につながり、被害の拡大を未然に防ぐことができます。



被災地の位置と
周辺の地図情報



被災地の画像

情報の伝達に
かかる時間を
大幅に短縮。

パトロール活動の流れ

パトロール開始

防災上特に
注意する箇所

●異常発見
●連絡、措置

パトロール終了

●パトロール
日誌の作成
●履歴データと
して保存・活用

道路パトロール支援システム

携帯端末、GPS、レシーバ、携帯電話などの情報機器を組み合わせたシステムです。よりの確で効率的なパトロール活動と災害時の速やかな対応が可能となりました。このシステムは現在、網走開発建設部北見道路事務所で試験的に運用されています。*人工衛星からの情報をもとに、利用者の現在地を知るためのシステムです。



携帯端末

道路・河川の安全を守る

道路や河川を安全で快適に利用していただくためには、日々の状況を適切に把握することが必要です。また、災害が起

かしよ
注意する箇所の把握が簡単に



現在位置表示

注意箇所の詳細

パトロール中は、携帯端末により現在位置と防災上特に注意する箇所の位置を正確に把握することができます。また、防災上特に注意する箇所に近づくと、携帯端末がパトロール員に音声で知らせるので、よりの確なパトロール活動が可能になります。

情報連絡の高度化



異常事象の位置の登録

状況写真の登録

これまでの無線、携帯電話による連絡に加えて、異常箇所があれば、位置、規模、状況写真のデータを現場から事務所などに送信することにより、より速やかで適切な対応が可能になります。

データ処理と活用の効率化



パトロール日誌の作成

データベースの参照

これまで、北見道路事務所では日誌を手書きで作成し、保存していました。現在は、パトロール中に携帯端末に登録した情報をパソコンに記憶させ、日誌を作成しています。日誌は自動的にデータベース化されるので、維持管理に必要な様々なデータを、簡単に取り出して活用することができます。

これまでの調査

広域的な土地の情報がないため、地域の農業関係者の話をもとに、土地の農作物の生育状況と土壌の性質を個別に調べていました。



北海道では、広大な土地を生かした農業が盛んです。北海道開発局では、安全で良質な農作物を安定して生産できるように、農地や排水施設の整備事業を行っています。農地や排水施設の整備事業を行うためには、事業計画を策定するために、土地の基礎的データや地域農業の課題などを調査しています。

その中で、広範囲の農地の情報を効率的に集めて調査の期間を短縮するとともに、より正確なデータを収集することを目標として、人工衛星を利用した調査を試験的に行っています。

宇宙から農地の情報を集める

人工衛星を利用したリモートセンシング

宇宙から農地を撮影した衛星画像を解析して、広い範囲で土地の性質や作物の生育状況などの情報を得ることができます。

※リモートセンシング
遠く離れたところから、物の状態や性質を調べる技術。



解析

リモートセンシングを活用した調査

地域の農業関係者

衛星画像をもとにして、地域の農業関係者が、作物の育成方針や地域の農業の課題などについて、いっしょに話し合います。



実際の状態の情報を提供

北海道開発局

衛星画像と地域の農業関係者からの情報をもとに、整備が必要な場所を効率的に特定できます。



衛星画像だと、土地ごとの違いがよく分かるよ。

調査期間の短縮

より安全で良質な農作物の生産

自然調和型防波堤

防波堤としての機能に加え、海草や魚など海の生物を育む環境を作る機能を持ちます。また、従来の防波堤よりも建設のコストを下げ、環境に与える影響も少なくできるように配慮しています。



釧路港で建設中の自然調和型防波堤の完成イメージ

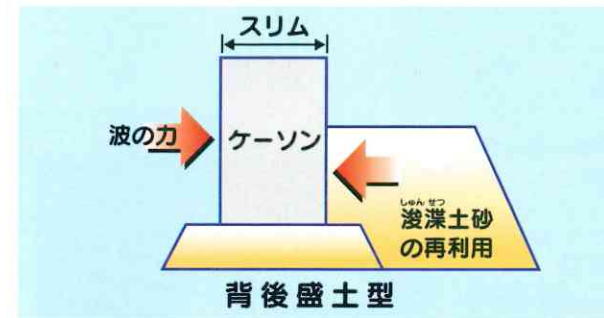
港の中に豊かな環境を生み出す

我が国の中でも貴重な動植物が生息し、豊かな自然が残されている北海道では、公共事業においても、生態系の維持や人と自然のふれあいの確保などを目指していくことが重要になっています。

港の整備を進めるに当たっても、本来の機能に加え、海の生物が生息できる環境を生み出す工夫が求められています。

北海道開発局では、全国に先駆けて、港と自然が調和した防波堤の調査、研究に取り組んできました。その成果は、現在、「自然調和型防波堤」として、釧路港をはじめ、北海道の港湾・漁港の整備に活かされています。

釧路港島防波堤

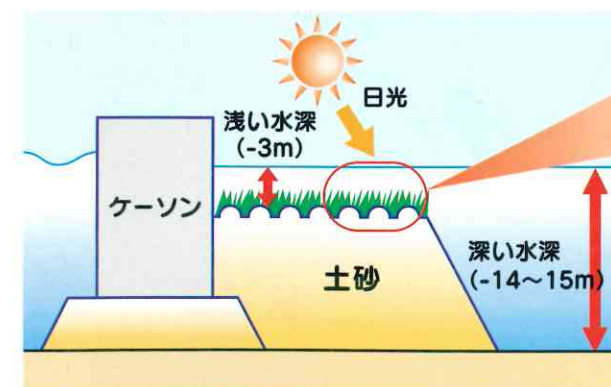


積み上げた土砂が、ケーソンと一体となって波の力に耐えます。土砂は海底を掘った（「浚渫」といいます。）際に発生したものを再利用します。ケーソンを小さくでき、費用の節約になります。

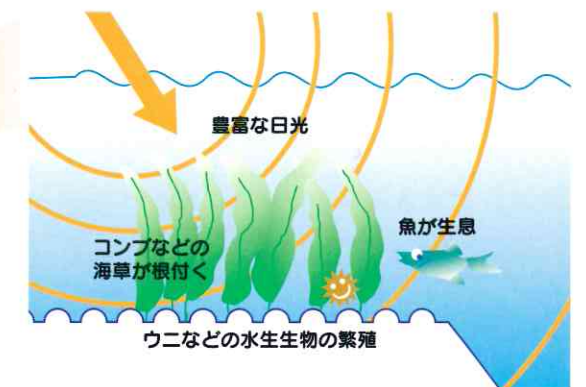
従来の防波堤



波の力に負けないために、ケーソンを大きくする必要がありました。また、水深が深いと海底には日光がほとんど届かないため、海草は育つことができませんでした。



さらに、光が十分に届き、海草が育ちやすい環境になるように、土砂の高さを調整します。



海草が根付くことで、魚などの海の生物が集まるなど、豊かな自然環境が形成されます。

道の駅

オホーツクエリアの道の駅

今回は林業が盛んな丸瀬布らしい木の温もりが伝わる道の駅と、昨年オープンした温泉が評判の上湧別の道の駅を紹介します。渓流釣りやオートキャンプ場など近隣のアウトドアスポットも充実。青空の休日、オホーツクのさわやかな風の中をドライブしてみませんか？



まるせっぷ

【国道333号 丸瀬布町】

丸瀬布町の道の駅「木芸館」の周辺は木のいい香りが漂っています。それも当然、すぐ裏が地元材木工場。貯木場には木材が整然と積み、いかにも林業のマチという感じがします。町の面積の



八角錐のユニークな建物「木芸館」が道の駅

96パーセントもが森林を占めるだけに、駅舎は町の木・赤エゾマツをデザインした建物で、館内には意匠を凝らしたインテリア小物から家具までの木工芸品が広いフロアいっぱい並び、目移りしそう。木製オルゴールやフォトスタンドなどは贈り物にも最適でしょう。天井まで吹き抜けの音響のいい館内には



ウッドクラフトのギャラリーのような空間でゆったりお茶の時間

ドピアノが置かれ、クラシックの自動演奏が心地よく響きます。実はこのピアノには地元の赤エゾマツが使われています。庶民的な赤エゾマツですが、年輪が詰まって堅く、音の響きがよいことからピアノの響板や鍵盤に使用され、楽器材としては超一流。そんな空間でコーヒーを楽しむのもうれしいですね。食事は隣接の「フォレスト」で。つるんとしたのどごしの「じゅんさいそば」がおすすめ。

道の駅から車で南に15分ほど行くと、蒸気機関車に乗れる「森林公園いこの森」があります。昆虫生態館や温泉、オートキャンプ場内を流れる武利川での渓流釣りと楽しみもいろいろ。ぜひ泊まりがけでお出かけください。



「木芸館」横の「フォレスト」には食堂と土産コーナーがある。炭薪せっけんや手づくりどうふセットなどがオススメ。釣り情報もここで仕入れよう

☎01584-7-2010

中湧別

【国道242号 道道中湧別停車場線沿い 上湧別町】

ドライブ途中で温泉を楽しみ、オホーツクの味覚も満喫



洋風タイプの露天風呂。木を配した和風タイプもあり男女が日替わりで入れ替わる

120万本が咲き誇るチューリップ公園で知られる上湧別町の新しい顔が、日帰り入浴施設「チューリップの湯」です。国道242号から、かつての駅前通りを1キロ程入った旧国鉄跡地に昨年春オープン。と同時に、向いの文化センターTOM(トム)にあった道の駅が温泉へ移動しました。気軽につろげると評判の湯は、大きなガラス張りの窓から日ざしが差しこみ、明るく清潔感にあふれています。ちょっとあったまったら浴室と直結した露天風呂で思いっきり体を伸ばし、開放感にひたってみては。大浴室と露天には洋風と和風の2タイプあり、日替わりで両方楽しめるのもうれしい。ドライブの途中でも、貸しタオル(100円)があるので大丈夫。おながすいたらレストラン「アルクマーク」へどうぞ。日本最北のリンゴの産地である上湧別らしい、リンゴのライス入りカレーライスやボリューム満点のホタテのかき揚げ丼、じゃがいものグラタンなど、地元の食材を使った料理が楽しめます。売店のおすすめはチューリップを使った菓子類やオホーツク産カラフトマスのピリ辛トバなどの珍味。ここの温泉水を練り水に使用した生ラーメンもお土産に人気です。



モダンなデザインの「かみゆうべつ温泉 チューリップの湯」

隣接する文化センターもぜひ立ち寄ってみましょう。館内にはユニークな漫画美術館や漫画もある図書館、多目的ホールがあり、うれしいことに図書館は水・木は夜9時まで開いています。

☎01586-4-1126



浜中町出身のモンキーパンチ氏の原画も飾られている漫画美術館。ガロやサザエさんの初版本も

ほっと一息コーヒータイム

年々増える道の駅。6月と7月オープンの「てしお」「ライスランドふかがわ」を合わせて76駅になります。「スタンラリー2003」の楽しみもどんどん広がりますね。

実施期間2003年4月19日(土)～11月3日(月)

完全制覇賞(74個以上)は2003年11月3日(月)までです。ただし2004年3月31日(水)までに全駅完全制覇するとともに「完全制覇認定証」及び「全駅制覇ステッカー」がもらえます。

詳細は、北海道開発局のホームページからもご覧いただけます。 <http://www.hkd.mlit.go.jp>



旭川道路事務所

地域の方々とともに美しいみちをつくります。

旭川開発建設部 旭川道路事務所

第1工事課 計画係長 武田 祐輔

最・前・線

開発局と地域を結ぶ
主役はまさに“ひと”
地域の人々と一緒に考え、行動する
その最前線に立つ姿を紹介します

北海道開発局では、ボランティア団体による国道の美化活動を支援しています。



近くの小学生も参加した今年の植栽

私もボランティアの方々と一緒に毎年6月に行われる植栽に参加しています。固く締まった土を掘り起こすのはかなり

私もおボランティアの方々と一緒に毎年6月に行われる植栽に参加しています。固く締まった土を掘り起こすのはかなり

私の仕事のひとつです。平成12年度に始まった植栽は、現在八百メートルを超え、夏には道路の両側に紫色の帯が続きます。このようなボランティア活動の支援も

私の仕事のひとつです。平成12年度に始まった植栽は、現在八百メートルを超え、夏には道路の両側に紫色の帯が続きます。このようなボランティア活動の支援も

づくりを進めようというものです。植栽や除草に必要な作業器具を貸し出す「ボランティアサポートプログラム」という制度により行われました。地域の方々に道路の美化や清掃などに参加していただき、一緒に快適なみち



ハーブの香りがほのかにたたく歩道

今年の「北海道スカイスポーツフェア」は、“空のまち”として一層の充実を目指している白老町で開催されます。

音楽に合わせてダンスのように空を舞うスポーツカイト、パラグライダーなどのデモフライトが行われるほか、体験フライト、各種機材の展示や子供スカイスポーツ教室などが楽しめます。

2003北海道

スカイスポーツフェア イン しらおい

開催日時 平成15年9月7日(日)

会場 白老滑空場(白老町字北吉原516)

問い合わせ (社)北海道スカイスポーツ協会

☎011-232-4347

空に広がれ、
夢にエール



もう行った？ また行こう！

—滝野すずらん丘陵公園開園20周年—

「自然とのふれあい」をテーマに、北海道開発局が整備を進めてきた滝野すずらん丘陵公園が、開園20周年を迎えます。これからも、滝野公園はまだまだ進化を続けます。

平成6年、「オートリゾート滝野」がオープン。一般乗用車をはじめキャンピングトレーラーも利用できる本格的なオートキャンプ場です。



平成12年、生き物の巣をテーマにした子供の遊び場が展開する「こどもの谷」がオープン。あり塚の塔を中心に作られたエリアは子供たちの冒険エリアです。



平成元年に「青少年山の家」がオープン。主に小、中学生を対象にした野外宿泊学習施設です。



●●●開園20年のあゆみ●●●

北海道で唯一の国営公園、滝野すずらん丘陵公園（滝野公園）は、札幌の市街地から車で30分ほどの札幌市南区滝野地区にあります。公園が整備されるまでは、明治初期に木材の生産地として開拓され、昭和40年ごろにはパイロットファームとして利用されていました。

昭和53年度から、北海道開発局が公園の整備を始め、昭和58年の「溪流ゾーン」のオープンとともに滝野公園は開園しました。

平成元年には野外宿泊学習施設「青少年山の家」、平成6年には国営公園初のオートキャンプ場「オートリゾート滝野」などが順次オープンしました。平成12年には有料区域の中心ゾーン「カントリーガーデン」と「こどもの谷」の一部が、平成14年7月には「こどもの谷」の全域が利用できるようになりました。雪に覆われる冬にも、スキーゲレンデ、歩くスキーコースなどが楽しめます。現在、全面積約400ヘクタールのうち、ほぼ半分となる約190ヘクタールが開園中です。

これまでの間に、四季を通じて楽しめる公園として多くの方に親しまれるようになり、昨年8月には、開園以来の入園者数が1,000万人を超えました。

そして、今年7月30日、滝野公園は開園20周年を迎えます。

●●●これからの滝野公園●●●

これまでの滝野公園は、基本テーマ「自然とのふれあい」に沿って、「カントリーガーデン」や「こどもの谷」など、「親しみやすい自然」のエリアをつくることに力を入れてきました。これからは、より自然との触れ合いを深める場となるエリアの整備を進めていきます。

平成16年度にオープンを予定している「森のすみか」は、かつて開拓で築かれた地形や自然を活かして、「自然を知るきっかけ」の場となることを目指しています。

また、「森林体験ゾーン」では、森林に野外活動の拠点施設をつくり、「自然にはたらかせる場」を提供できるよう整備を進めています。こちらは、平成19年度までに一部オープンの予定です。

●●●開園20周年を記念して●●●

平成15年度は、開園20周年を記念して様々なイベントを企画しています。

6月29日には、「札幌交響楽団」のメンバーによる野外コンサートを開催しました。公園の様々な場所でパリエーションに富んだ音楽を演奏し、音楽と自然が一体となる滝野公園の新しい魅力を楽しんでいただきました。

また、7月には、「滝野公園」と「花」をテーマにしたシンポジウムの開催を予定しています。

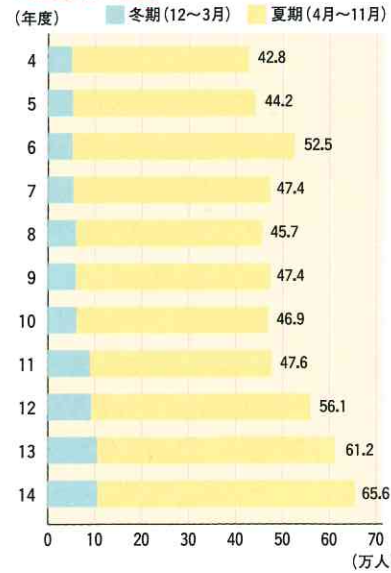
開園20周年を迎えますますます充実の滝野公園に、今年も是非お越しください。

平成11年、「スノーパーク」がオープン。幼児や初心者でも安心して滑ることができるスキーゲレンデのほか、スノーラフティング専用コースや自由に遊べる雪遊び広場などがあります。



昭和58年、滝野公園で最初にオープンした溪流ゾーン。日本の滝100選にも選ばれたアシリベツの滝や炊事遺足広場などがあるエリアです。

入園者数の推移



平成12年、「カントリーガーデン」がオープン。北海道らしい田園風景が広がり、北国の生活に花と緑を取り入れるための様々なアイデアがあふれています。



平成14年、「こどもの谷」が大地をテーマにバージョンアップ。地上から無数に突き出した不思議なツノ、抱きついたり、体当たりしてみたり、まかふしぎな世界が広がっています。

滝野すずらん丘陵公園 開園20周年イベント予定

- 記念シンポジウム「花と緑のある北の暮らし」
—滝野からはじまる花めぐり—
開催日 平成15年7月22日(火) 13:30~
開催場所 かでる2・7(札幌市中央区北2条西7丁目)
- 滝野新発見!カントリーガーデンの秘密を探る—フラワーガイドと共に—
開催日 平成15年7月26日(土)
開催場所 滝野すずらん丘陵公園 カントリーガーデン



千年の樹

三友牧場チーズ工房
「チーズ館」代表
三友 由美子

Mitomo Yumiko



早春の三友牧場内。奥の建物はチーズの工房



植樹した苗木の成長を見守る三友夫妻。「木に語りかけたりほめると、それに応えるように花が咲き成長してくれる」と由美子さん

知人に贈る本を求めに書店に行った。そこで「千年の樹」という写真集を手にした。すぐに書棚に戻したが、そこで目にした大木の写真が帰宅後、目にも焼きついていった。

大動脈のように地に入りこんだ根や時を経た木の肌、天を覆う木の枝と葉の間から差し込む日の光、それらが忘れられず、数日後再び書店に行きその写真集を買い求めた。著者は樹齢数百年から数千年を総じて「千年の樹」と呼んでいる。

鹿兒島県屋久島の杉は圧巻である。

「弥生スギ」は樹齢3000年、「仏陀スギ」は樹齢1800年と推定される。屋久島では1000年以下の杉を小スギと呼ぶのだそうだ。

写真を通して湿った空気と苔の匂いの中で思っく巨樹の気が伝わってくる。

千年の樹の多くは寺や神社の境内にある。

樹そのものが御神体となつて拝礼され新しい年には祈願をかけられることも多い。いつの頃からかそうして人々は限りある命の行方を御神木に聞き、願いを託してきた。

写真集は鹿兒島に始まつて青森で終わっている。自然条件の厳しい北海道では千年の巨木にはなりえなかったのか。

そういえば北海道で目にするのは針葉樹の林と二次林と呼ばれる細い木々である。北海道開拓の歴史は木を切ることだった。木は開拓者にとっては難行苦行の元であつて、成功は木を切つて耕作地を広げることによりなし得た。だから人の住む所は皆伐採してしまつたし、その名残が北海道人は木を切ることに頓着しない。道路や鉄道を作ろうと思えばそこにどんな木が生えていようと伐採して直進させるし、河畔林もすつかり切つて牧草地にしてしまふ。



牧場内ではいろいろな若い木が成長中。ここは牧場を訪れる人たちに寛いてもらえるようなスペースにと、ベンチも置かれている

私は昭和43年、夫とともに開拓入植した。入植予定地に初めて訪れた時、そこは原野で大きな造材運搬車が満載の木を運び出し、大型ブルドーザーで抜根をしていた。

その後再び訪れた時にはすつかり開墾が終わつていて大地は廃根線(集めた木の根を列状に積んだもの)と黒土の耕作地になつていた。当時の制度のなかで私たち入植者に割り当てられた38ヘクタールの土地に生えていた木は全て伐採され、原野には一

本の木も残されてなかった。原野は荒涼として、遠くどこまでも見渡せるほどになっていた。

殺風景な原野に家と牛舎を建て開拓生活は始まつた。木のない開拓生活では新緑が芽吹くのも気づかず、紅葉で季節を知ることもなかった。吹きさらしの牧場の冬はブリザードが激しく、満天の星の下で雪が吹き荒れた。それは原野を丸裸にしてしまったことへの木々の怒りに見えた。

木のない風景は貧しかった。

入植十数年を経て、牛飼いが軌道に乗つたころから夫と私は牧場に木を植えようと決めた。近くの林から小さな木を掘つてきて家の周りに植えた。白樺、樺(なら)、榎(にれ)、いたや楓、山桜などをスコップで掘つてきたがそれらは木とは名ばかりの人の背丈もない頼りげな姿だった。

近所の長老が「木は伐る物ではなく観るものだ」と言つて大切に育てた木をくれたのでそれを移植した。彼は私たちが木の命を引き継いでくれることを信じたのだらう。あれからわずか20年ほどしか経ていないがそれらの木は見事に根を下ろし、枝を張り、年輪を重ねている。牧場の林はまだ若い木々の梢を渡る風は心地よく確かな季節を伝える。

三友牧場ではもう入植当時のようなブリザードはなくなった。

多くの鳥が来るようになり、春早くから賑やかに囀り、その声と姿を楽しませてくれる。

桜の開花で春を知り、豊かな紅葉が秋を彩る。

これらの木々のどれかが千年の樹になつて命をつないでくれると信じている。

私はいつか千年の樹を訪ねる旅に出たいと思つている。そして「未来」という時間の尺度を体感してくる。これからの時間の尺度を変えて生きることができたら幸いである。



入植当初原野だった三友牧場(右)と35年後の同じ場所の写真を手にする由美子さん

Profile プロフィール

三友 由美子(みとも ゆみこ)

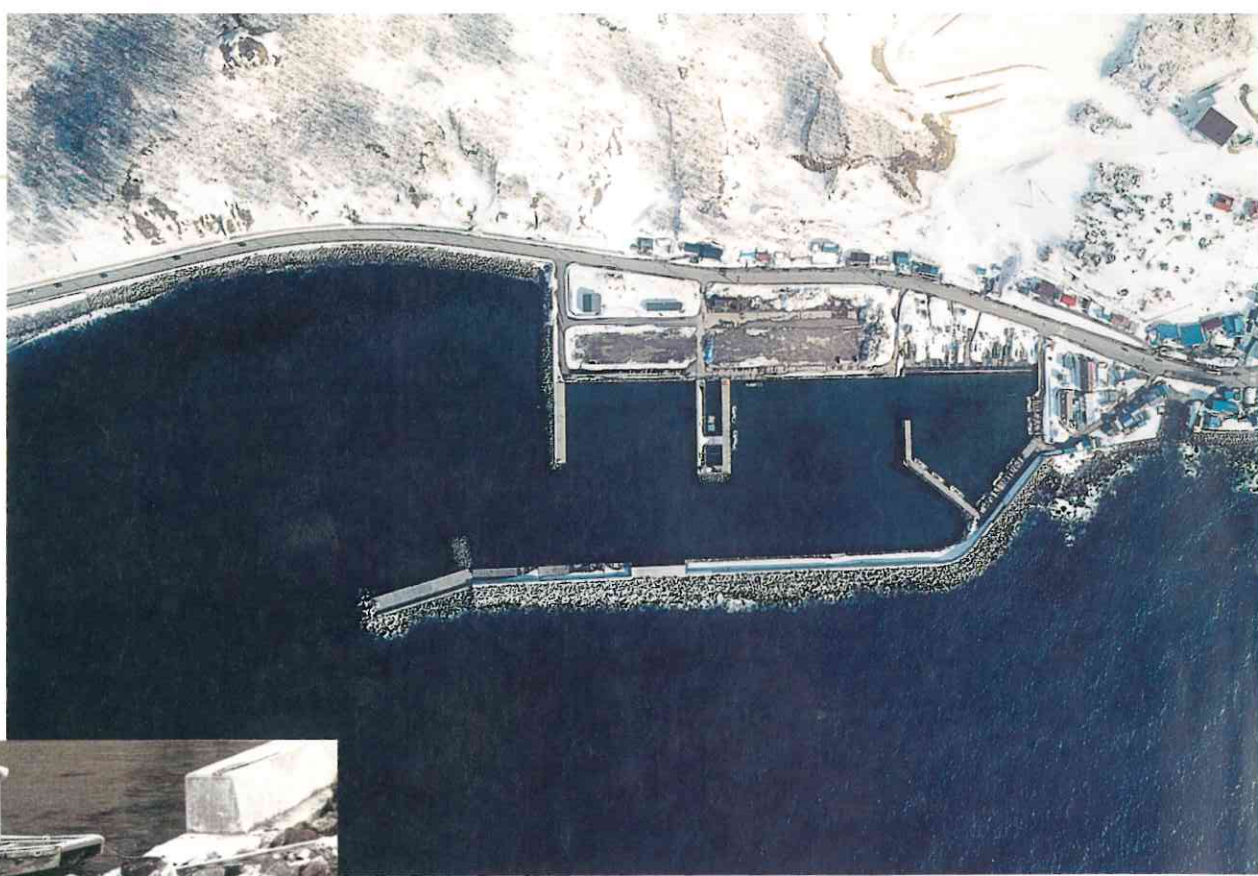
東京都台東区浅草生まれ。昭和43年、夫の盛行氏と根室管内中標津町へ開拓入植。放牧を中心とする風土に生かされた適正規模の「マイペース酪農」を実践する傍ら、平成7年に農家の主婦らと「農家チーズを作る会」を結成し、牧場自家製のチーズ作りに取り組む。平成10年より自分の牧場内に建つ工房「チーズ館」でチーズの製造・販売を始める。夏場の牛の乳で作る熟成1年を超えるハードタイプの「山のチーズ」と、冬の牛の乳で作る風味豊かなウオッシュタイプの「グラント・マ・チーズ」が主力チーズ。釧路・根室管内の酪農家のチーズ工房の集まり「根創ナチュラルチーズ紀行」の会長を務める。

漁業と暮らしを守り続けたみなと

～雄冬漁港～

雄冬沿岸は、古くはニシン漁場として栄え、近年は、カレイ、タコなどの好漁場として知られています。雄冬は、かつては「陸の孤島」と言われ、交通、物流の大部分を海上輸送に頼るしかなく、漁業の基地として、また、地域の住民の生活を守る重要な施設として漁港の整備が進められてきました。

国道が開通した現在、雄冬漁港は、近海の好漁場への基地として、さらなる発展が期待されています。



現在の雄冬漁港（平成15年）



漁港整備以前の雄冬



昭和34年から就航。雄冬～増毛間定期航路は「新おふゆ丸」に引き継いだ後、平成4年閉航 増毛町 飛内眞吾氏 提供

西防波堤から漁港整備が始まりました（昭和27年頃） 増毛町 飛内眞吾氏 提供



防波堤建設工事の様子（昭和27年頃） 増毛町 提供



平成4年に蓄養施設が完成

様子をうかがい知ることができません。平成4年には、漁港内に蓄養施設（※2）が完成しました。漁業は天候などの自然条件に左右されるため収入が不安定になりがちでしたが、施設の完成により漁獲物の出荷調整ができるようになり、収入の安定に役立っています。また、雄冬にはサケが遡上する大きな川が近くにないことから、サケの稚魚を直接海に放流していますが、施設は放流前の稚魚の海中飼育にも利用されています。

雄冬近海では、かつてのようにニシンは見られなくなりましたが、沖合には好漁場となる大小様々な天然礁があり、雄冬漁港は近くの漁場を利用する漁船の支援基地としても利用されています。

また、エビ漁など冬期間の漁業も盛んなことから、北海道開発局では、冬期間の漁港の安全性を高めるために、港の出入口に当たる部分の沖合に島防波堤（※3）の建設を進めています。この島防波堤にはトンネル工事で発生した岩石をリサイクル活用して人工の浅場を作る予定で、コンブなどの海藻類が育つ新たな磯根漁場として活用されることも期待されています。

※1 第4種漁港 漁場の開発や漁船の避難のための漁港で北海道には22港あります。
 ※2 蓄養施設 漁獲物を一時的に生きたまま保管する施設です。
 ※3 島防波堤 陸続きの防波堤ではないので「島」防波堤と呼びます。

様々な困難があった初期の整備
 雄冬漁港は、昭和26年に第4種漁港（※1）の指定を受け、国が直接漁港の整備を行うことになりました。そのころは、まだ前浜に石を敷いてその上を転がすような船揚施設がなく、時化から船を守る護岸もありませんでした。

工事は西側の防波堤建設から始まりましたが、現在のような大型工事用機械はなく、コンクリートの打設では、現場でミキサーを使って練り、リヤカーで運ぶというように、ほとんどの作業が人力中心の困難を極めた工事でした。

また、当時は道路がまだないため、セメントや砂などの工事用資材は、主に増毛からの船による輸送に頼らざるを得ず、防波堤に使用したケーソン（コンクリート製のこ）は、留萌港で製作したものを半日ほどかけて船で運んで据え付けるなど、資材の調達という面でも苦勞の多い工事でした。

変わる雄冬漁港

昭和34年には西防波堤の一部が完成し、雄冬～増毛間には定期船「雄冬丸」が就航しました。その後、「新おふゆ丸」が引き継ぎ、平成4年の国道の通年開通に伴いその役目を終えるまで、これら定期船が雄冬の生活と経済活動を支えました。映画「駅 STATION」（昭和56年公開）からも、当時の漁港の

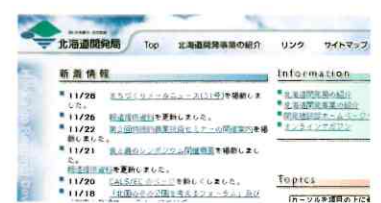
EZ-web版ホームページを開設しました。

北海道開発局では、携帯電話での行政情報の提供を行っています。
 このたび、iモード版、J-sky版に加え、新たにEZ-web版のホームページを開設しました。
 河川敷公園案内や道の駅の情報などがご覧になれます。
 下記の手順でアクセスしてみてください。



「かいはつグラフ」がインターネットでもご覧になれます。

北海道開発局のホームページでは、「ほっかいどうかいはつグラフ」の誌面の一部を掲載しております。掲載している記事は、特集、しごと最前線、事業紹介(17号以降)です。バックナンバーも見る事ができますので、ぜひアクセスしてみてください。



アドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp>

えでたぬき

緑深い季節になりました。草木が茂り、鳥がさえずり、虫たちの活動も最も盛んな季節です。早朝、近くの公園へ行きひんやりとした「緑の空気」を胸一杯吸いました。日頃の不摂生のツケが洗い流されるような不思議な力が感じられます。今年1月、国土交通省では日本の自然環境や文化、歴史を活かした国際交流を促進する必要から懇談会を設置し、「観光立国」戦略を立てることとしております。北海道はこれまで「雄大な自然」を活かした様々な観光振興策が展開され、エコ・ツーリズムも盛んです。しかし、最近、モンゴルなど観光立国を目指す国へのエコツアーが盛んになるにつれ、環境汚染などが進み自然との共存を危ぶむ声もあります。北海道の「素材を活かした料理？」の評価はいろいろですが、後世に引き継ぐ北海道の「自然を活かした観光」とはどんな姿か。知恵と工夫が必要です。(S)

「かいはつグラフ」を初めて読みましたが、どの記事も読みごたえのある内容に仕上がっていたと思います。もっとたくさんいろいろな記事を載せて下さい。
 (上士幌町 M・Yさん)

国営滝野すずらん公園のマスコットキャラクターがかわいいので好きな食べ物や年齢、どんなところに住んでいるか教えて下さい。
 (三笠市 T・Nさん)

(お答えします。) マスコットキャラクターの名前は、「きのたん」といいます(下のイラストの左から3番目)。滝野の森に住むエソモモンガです。人間でいうと7歳のお母さんが作る料理と木の葉が大好きです。きのたんには、たくさん仲間たちがいます。



ひろば

32号アンケートはがきより...

ピックアップ Pickup

住まいとまちづくりの連携をめざして - 「北国の住宅ビジョン」の策定 -

平成15年4月、北海道開発局では、北海道にふさわしい住まいづくりとその実現を目指す「北国の住宅ビジョン」を策定しました。このビジョンは、「クオリティ・オブ・北海道ライフ」(自分らしく豊かで良質な生活や生き方)の実現の場を提供することを目標としています。住まいづくりを単なる住宅整備からまちづくりの一部と捉え直し、地域住民と行政や企業、NPO等との協働作業で美しい街並みづくりや地域コミュニティの再生などの実現を目指して、その方策や仕組みづくりを提案しています。



札幌第1合同庁舎内国図会館分館のほか、北海道開発局のホームページ(<http://www.hkd.mlit.go.jp>)でもご覧になれます。

新しい水防の歴史を刻みます - 十勝川水防公開演習 -

6月14日、北海道開発局は、十勝管内20市町村などとともに、豊頃町の十勝川の河川敷において「十勝川水防公開演習」を開催しました。



演習では、大洪水と地震を想定して、水防や救助活動などのほか関係機関の連携強化や水防技術などの訓練を行いました。また、大雨や地震などの体験コーナー、防災・避難用品の展示コーナーなどを通して、万一の時に役立つ情報を住民の皆さんに紹介しました。

また、十勝川の本格的な治水事業が始まって今年で80年を迎えたことを記念し、演習会場をはじめ、帯広市内各地で「十勝川治水事業80年のあゆみパネル展」を開催しました。今後も、7月19日に帯広市でミュージカルの上演、8月上旬に絵画コンテストの表彰式などの記念事業を予定しています。



開発カレンダー

7月1日~31日	河川愛護月間	7日: 川の日	9月1日	防災の日
7月12日	滝野すずらん丘陵公園無料開園		9月7日	2003北海道スカイスポーツフェア イン しらおい(白老町 白老滑空場)
7月16日	国土交通Day		9月10日	下水道の日
7月20日~31日	海の旬間	20日: 海の日	9月10日~15日	ツール・ド・北海道
7月22日	滝野すずらん丘陵公園 開園20周年記念シンポジウム (札幌市 かでる2・7)			
7月25日	ザ・シンポジウムみなと in 苫小牧 (苫小牧市 グランドホテルニュー王子)			
8月1日~31日	道路ふれあい月間	10日: 道の日		
8月下旬	平成15年度第2回環境セミナー (札幌第一合同庁舎)			
9月20日~30日	空の旬間	20日: 空の日		



17回目を迎える今年の大会は、国内外からの20チームが参加して、旭川から道北、道央の29市町村を駆け抜ける総延長765kmのコースで行われます。
 問い合わせ先
 財)ツール・ド・北海道協会
 011-222-5922

昨年の大会の様子